

報道関係者各位

鹿児島県曾於市水道課

【日本初】日本のインフラを変える挑戦!  
技術共有スマートグラスプラットフォーム事業始動について



かつては夢物語だった未来を、現実にする。

現場映像を、リアルタイムで共有。

迷いを減らし、判断を支え、技術を繋ぐ。

プロジェクトHP



日本初の技術共有スマートグラスプラットフォーム —Type Soo Mine—

鹿児島県曾於市は、上下水道分野における人材不足と技術継承の課題解決に向け、現場の映像・音声・判断をリアルタイムで共有し、記録・教育までを一体化する「技術共有スマートグラスプラットフォーム Type Soo Mine (略してTSM-ティーセム-)」の開発に着手しました。

本事業は、専用アプリに依存しないブラウザ方式を採用した、日本初のスマートグラス型インフラDXモデルです。さらに、上下水道DX分野における「ふるさと納税型クラウドファンディング」の実施も全国初となります。

■共同開発

本プロジェクトは、曾於市と**大阪市の民間企業 株式会社 USEYA (ユーズヤ)** が共同で、日本初となる「技術共有スマートグラスプラットフォーム」を開発する事業です。

■スマートグラスとは

スマートグラスとは、眼鏡型のウェアラブル端末です。

作業者が装着することで、現場の映像や音声をリアルタイムで遠隔共有できます。TSM では、単なる映像共有にとどまらず、遠隔地の上司や専門技術者が映像を見ながら指示を行い、複数人で同時に支援することが可能です。例えば、現場に不慣れな職員が現場で対応に困った場合に、上司、機器メーカー、メンテナンス業者などリアルタイムで現場映像を共有しながら作業が行えるようになります。現場の状態を見て欲しいという要望に対応する、民間事業者の「初回現場確認負担」を減らす効果も期待できます。さらに、現場でのやり取りを自動録画し、AI で要約・編集することで、教育教材として再活用できます。

## ■日本初のポイント

本プロジェクトは、以下の点において日本初の取り組みです。

### ① ブラウザ方式によるスマートグラス型インフラ DX

専用端末や特定アプリに依存せず、スマートフォン・PC・タブレットなど様々な端末から接続可能。

「現場共有」「記録」「教育」を一体化した仕組み。

### ② 上下水道 DX 分野におけるふるさと納税クラウドファンディング

インフラ DX の構築を目的とした、全国初のふるさと納税型クラウドファンディング。

### ③ 技術・教育・現場を融合した実装モデル

単なる機器導入ではなく、「技術継承」「教育」「全国展開」までを前提に設計。

※いずれも現時点における当市調べ

## ■背景（社会課題）

全国の上下水道事業では、・技術職員の減少・ベテラン技術者の退職・災害対応の高度化・施設老朽化が同時に進行しています。曾於市においても、少人数で広大なインフラを維持しており、「人に依存した技術継承」は限界を迎えつつあります。このままでは、“当たり前前に水が使える日常”を守れなくなる可能性があります。

## ■本プロジェクトの独自性

本プロジェクトは、単なるスマートグラス導入ではありません。

現場で行われている、「どこを見て」、「何を優先し」、「どう判断したのか」という熟練技術者の“判断”そのものを共有・蓄積し、教育へ転換する仕組みとして設計されます。

実装開発は、**大阪公立大学客員准教授の金子氏が代表取締役を務める株式会社 USEYA が担当します。**

現場実装は、全国で約 50 名のみ選出されている JDX アンバサダーの一人である曾於市水道技術管理者・大峯が主導しています。さらに、熊本大学大学院において教育工学（Instructional Design）の研究を進めており、その知見を本プロジェクトへ反映しています。

## ■従来手法との違い

従来のテレビ会議システム（FaceTime、Zoom 等）では、作業中の利用が難しい、視界共有に限界がある、・現場教育への活用が弱いといった課題がありました。

TSM では、作業者の視界そのものを共有しながら、遠隔から官民間わず、多様な担当者、専門家が同時に支援できます。さらに、その記録を教材化することで、現場の記録のみに留まらず、“対応した瞬間”を“次世代教育”へ変換します。

## ■期待される効果

- ・初動対応迅速化
- ・技術継承の高度化
- ・少人数体制でも持続可能な運営
- ・コスト削減
- ・全国自治体への横展開

## ■今後の展開

曾於市での実装をモデルケースとし、全国自治体がゼロから開発することなく導入できる「標準モデル」として展開を目指します。上下水道にとどまらず、道路・農業・教育・災害対応など多様な応用も視野に入れていきます。

## ■資金調達

本事業は、**企業版ふるさと納税・個人版ふるさと納税（クラウドファンディング）**を活用し、開発導入資金を全国からの支援により推進します。

## ■実績・信頼性

曾於市と USEYA は共に 2025 年の JAPAN HRDX AWARD のファイナリストであり、DX についてそれぞれの分野で実績を積み重ねてきました。双方の得意分野を融合し、まだ日本にない「あったらいいな」を実現します。**まさに曾於市×USEYA だからできる取り組みです。**

### 【曾於市】

- ・JAPAN HR DX AWARD グランプリ受賞・国土交通大臣賞・水道イノベーション賞
- ・JDX アンバサダー選出
- ・自治体 DX における先進的取り組み実績

### 【株式会社 USEYA】

- ・DX イノベーション大賞 最優秀賞 受賞
- ・国際 XR アワード「XR Awards」2024・2025 年 2 年連続ファイナリスト(オランダ・ベルギー)
- ・世界三大デザイン賞「iF Design Award」受賞(ドイツ)



## 現場の声が示す必要性

民間事業者146社を対象とした  
アンケート結果



使ってみたい  
応援したい  
**80%以上**

机上の構想ではなく、現場の切実なニーズに基づいてDXであることを証明しています。

## Type Soo Mine (タイプ・ソー・マイン) とは?

個人の経験を組織の知に変える

### Type

現場での判断や経験を、  
その場で入力し「型」として残す。



### Soo / So

曾於市から始まる。また、英語の  
“so” (だから・その結果) という  
論理的判断。



### Mine

人の中に眠る暗黙知という  
「資源」を掘り起こす。

